

労使研

「情報」第56号 2019年1月

労使関係研究協会

〒105-0014東京都港区芝2丁目

20番12号（友愛会館8階）

電話：03-3453-5386

FAX：03-3451-1710

関西支局

〒550-0001大阪市西区土佐堀

1丁目6番3号

（JAM西日本会館内）

電話：06-6225-2881

賀正



今年もよろしくお願いたします

2019年の新春を迎えて

一般財団法人日本労働会館
理事長 小出 幸男



労使関係研究協会の会員をはじめ、ご支援を賜っております各産別、労組の皆様、あけましておめでとうございます。新しい年を迎えるにあたり、一般財団法人日本労働会館を代表して、ご挨拶を申し上げます。

アメリカの大統領選以来、ポピュリズムといわれる政治潮流が世界を覆ってしまっているかのように見えます。トランプ政権の「アメリカファースト」は言うに及ばず、ヨーロッパでは移民、難民受け入れをめぐるイギリスのEU離脱問題、ドイツでもフランスでも自国第一主義の風潮が強まっています。

さらには「強いロシア」をめざすプーチン政権の強引な外交政策や、中国の習近平政権の軍事的経済的な拡張政策など、覇権主義の力も強まっています。

ポピュリズムは大衆迎合主義とも言われますが、それよりも「民衆の敵」というような煽動的な言葉を使った大衆操作のようにも受け取れます。私たちが身上としてきた「是々非々」とか「真理は中道にあり」というような矜持とは対極にあると、私には思えます。世界は今、「力対力」のせめぎあいの場と化しています。

国内でも安倍政権は森友・加計問題など都合の悪いものには強引に蓋をし、安全保障問題やカジノ法案、働き方の改悪、さらには外国人労働者の解禁などを推し進めようとしています。改憲問題や北方領土問題など独断専行の懸念がぬぐえないものがあります。

今年は平成から新しい時代に移る変化の年。ぜひとも良い年にしなければなりません。参議院選挙でよい結果を残し、その翌年はオリンピック・パラリンピックです。明るい未来を求めて、皆様と頑張っていきたいと思えます。

私ども一般財団法人日本労働会館も、新財団、新会館を作り6年が経ちました。友愛労働歴史館も年2回の展示会活動を軸に、来館者も通算9千人に迫ろうとしています。労使関係研究協会は労働講座や講演会で年6回のイベントを開催し、会館全体として「友愛会創立を記念する会」の活動の支援をしています。公益活動も定着し、新たな展開をめざす時期にきたといえるでしょう。

宿泊事業も競合は激しさを増していますが、「安全・安心・安価」の3安を心がけ、3億円の売上を目標に経営を進めています。2019年は皆様のご多幸をお祈りしつつ、ともに前進していくことをお願い申し上げます。

労使関係研究協会の活動(2018年9月～12月)

第88回講演会

日 時：2018年9月11日 (火)

場 所：JAM西日本会館6階講堂

テーマ：「A I とは、その現状と将来」

講 師：小林 和馬氏 (東洋大学経済学部助教)

参加者：24人

概 要：①A I とは、類語C I Tとは、②A I の現状と経済規模、③世界的に日本の立場は、③将来的に労働者の雇用を脅かすものとなるのか等

第89回講演会

日 時：2018年10月23日 (火)

場 所：友愛会館8階・友愛労働歴史館研修室

テーマ：「北朝鮮の動向と拉致問題の展望」

講 師：荒木和博氏 (拓殖大学海外事情研究所教授、特定失踪者問題調査会代表)

参加者：34人

概 要：今年4/27日南北首脳会談、6/12日米朝首脳会談と、北朝鮮問題は大きな転機を迎えた。今、北朝鮮の「完全な非核化」へ向けてどういう変化が起こっており、今後どうなるのか。日本にとって重要な拉致問題はどうか。

第83回研修会

日 時：2018年12月6日 (火)

場 所：千葉県野田市

テーマ：「野田労働争議史跡めぐりとキッコーマンもの知りしょうゆ館見学」

野田労働史跡巡りガイド：間宮悠紀雄氏 (友愛労働歴史館事務局長)

参加者：18人

日 程：野田市郷土博物館、市民会館、労働争議関連施設巡り、キッコーマンもの知りしょうゆ館 (旧野田醤油第17工場・労組の拠点)

第84回研修会

日 時：2018年12月21日 (金)

場 所：兵庫県神戸市

テーマ：神戸医療産業都市推進機構

参加者：

日 程：①神戸医療産業都市の施設概要説明、②健康活き活き羅針盤プログラムの研究見学、③スーパーコンピューター「京」の概要説明



荒木和博氏

キッコーマンもの知りしょうゆ館にて



友愛労働歴史館の活動(2018年9月～12月)

展示会活動について

友愛労働歴史館は展示会活動として常設展と企画展(年2回)を開催している。常設展「日本労働運動の100年余一友愛会・総同盟(戦前)を中心とする」は、2012年8月1日のオープン以来、原則同一内容で開催している。

2018年下期の企画展として松岡駒吉の生誕130年・没後60年、そして松岡が主導した野田労働争議から90年を記念し、企画展「松岡駒吉一ひとすじに労働者の利益を守った男」(2018.7.6～12.21)を開催した。

なお、2019年上期は企画展「民社党結党60年一勤労国民政党的旗を掲げて」、同下期は企画展「協調会創立100年」(仮題)を計画している。

<友愛労働歴史館企画展>

☆「松岡駒吉」展

と き: 2018年7月6日(金)～2018年12月21日(金)

と ころ: 友愛労働歴史館展示室

テーマ: 「松岡駒吉一ひとすじに労働者の利益を守った男」

内 容: 第1部 「松岡駒吉の生涯—1888年～1958年」

第2部 「野田醤油争議とその教訓—野田争議から90年」

第3部 「労働者の利益を守る現実主義労働運動」



☆「民社党結党60年」の開催

1月7日(金)から新しい企画展「民社党結党60年一勤労国民政党的旗を掲げて」(2018.1.7～06.28)を開催する。

民社党(民主社会党)は1960(昭和35)年1月24日、左傾化した日本社会党を離脱した旧社会民衆党系・旧日本労農党系(一部)グループにより創立された。民主社会主義を掲げ、勤労者を基軸とする国民政党的としてスタートした民社党は、35年の活動を積み重ね、1994年に新党(新進党)移行のため解散した。

今年は結党から60年(数え年)、解散から25年を迎える。友愛労働歴史館はこれを記念し、民社協会の後援を受けつつ、企画展「民社党結党から60年」(2019.1.7～6.28)を開催する。同展では民社党の35年の歴史・活動を紹介する中、その前身である社会民衆党(1926年結党)や日本社会党(1945年結党)にも言及しつつ、同党が掲げた勤労国民政党的の意味を浮き彫りにする。

同展の構成は第1部「民社党前史—社会民衆党から日本社会党までの35年—」、第2部「民社党の結党—その理念、組織、政策、活動—」、そして第3部「民社党の解散—新進党・民主党への合流、民社協会の結成—」。



資料の収集・管理

資料の収集・管理作業は年間を通して取り組み、元民社党関係者・元鉄労関係者・旧ゼンキン連合関係者・電力総連関係者よりそれぞれ資料の寄贈を受けた。また、一般の方からの資料寄贈も受けた。

「教科書の中の友愛会」

NHK高校講座「日本史」の「37 大正期の社会」には「友愛会の結成」として、以下の文章が掲載されています。参考に紹介いたします。

「友愛会の結成」

「明治から大正に改元された直後の1912(大正元)年8月1日、キリスト教の伝道にあたりながら社会問題に関心を寄せていた鈴木文治は、のちに日本の労働組合運動の中核となる友愛会をわずか15人の参会者で立ち上げた。当時、労働者が「一般社会」から「職工風情」と蔑まれ、「社会の最下等動物」のごとく見なされていたことに対し、労働を国家や文明を支える「神聖」なものとしたうえで、労働者自身の「相愛扶助」「識見の開発、徳性の涵養、技術の進歩」「地位の改善」によって差別と偏見を取り除いていこうとしたのである。それは、工場主や資本家に対して、同じ人間であることを認めてもらいたいという人格承認の願いでもあった。友愛会は結成から4年余で会員数が2万人に達し、人格承認の要求がいかに多くの働く人びとの心をとらえていたかがわかる。お互いに対等・平等な人間として認めあうことの大切さに、人びとは気づき始めていたのである。」

